

2006年9月12日

河野哲宏様

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたびは出版セミナーにご参加いただきまして、ありがとうございました。先日お話をさせていただきました、新風舎の でございます。引き続き河野様を担当させていただきますので、よろしくお願いいたします。

お預かりいたしました原稿を、作品の表現力、時代性、オリジナリティ、完成度、芸術性や、本になった場合の公共性、刊行の意義、読者獲得の可能性など、さまざまな観点から検討いたしました。その中で今までにない視点で切り取られた作品であるという一同の意見が一致いたしております。

お話させていただいた時にも触れましたが、空を被写体とした既存の写真集の場合、水平線や地平線を重きに置く、所謂ネイチャー写真集が主流となっています。本作品の場合、そういった主流と違った視点で切り取られており、ビルの谷間から覗く空という、普段目にする日常の景色でいながら癒される美しい写真が新鮮であり、是非市場に発信していきたいと強く感じております。

今回の企画案ではA5サイズ変形版として上辺をカットし、正方形にすることで縦横どちらの写真でも違和感無く鑑賞できる仕様と、写真集でありながら好きな写真はハガキとして贈れるポストカード文庫の2案をご提案させていただきました。

こうした出版目的を踏まえ、また河野様の創作に対する情熱に触れ、私としては是非ともこの原稿を出版化し、読者のもとに届けたいと思いました。

出版不況が叫ばれて久しい昨今、著者が魂をこめて生み出した作品の多くが、商業主義の出版社の都合により出版にまで至らない、または出版されても年間7万点という新刊書籍の嵐のなかで瞬く間に絶版本として消えていく状況は、より一層深刻化しているといえます。しかし、この度の応募作を拝読させていただき、そういった業界事情の判断だけでこのまま埋もれさせてしまうには惜しいと思いましたし、確実に届けたい読者があることから、出版プロデューサーとして是非世に問うてみたいと強く感じました。